

Project LAが目指す ソーシャル・インテリジェンスとは?

2014年2月4日

先端IT活用推進コンソーシアムコンテキスト・コンピューティング部会AITCエバンジェリスト牧野 友紀(日本ユニシス)

Project LAプロトタイプ・システムの目的 📈



収集した情報を知識化し、行動を促すシステム

インターネット等のビッグデータに人々が意味付けし、機械的に整理・分析することで、 個人化した知識を提示し、一人一人の行動を促す



課題は「情報取得」から「情報活用」へ



誰もがネット上の情報源にアクセスできるようになったが、意思決定などに十分に情報が 活用できているとは言い難い。

利用可能な情報源から個人毎に適時・適切な情報を活用する能力を強化できないか?

〇大量な処理



横断的に情報へアクセスできる 頻出度の高い一般的な情報が得やすい 参照率が高い専門家の見識が得やすい

△意味処理に限界

意図しない結果も含まれる。

- -意味することが同じ情報の抽出が難しい。
- -個別な状況に即した情報が得にくい。
- -変動する状況に応じた情報が得られない。



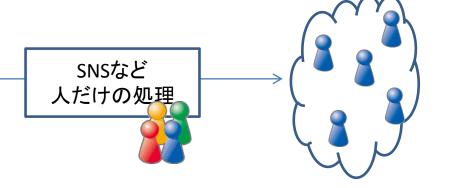


〇身近な情報

意図にあった情報を得られる 即時性の高い情報が得やすい 現地、現場の情報を得やすい

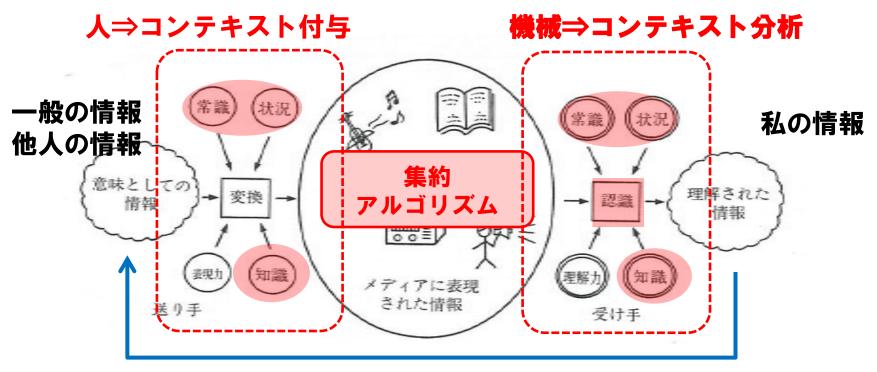
△断片的で散在

- -全体を網羅しにくい
- -集約された情報を得にくい



人と機械の協働による社会的な知見とその活用「C

人が意味付け・コンテキストを付与した情報を、特定のアルゴリズムで機械がリアルタイムに計算・加工することで動的に変容する社会的な知見を形成し、受容者が欲するコンテキストに合わせ情報を個人化する



ソーシャル・メディアの普及により受容者 は提供者となり評価を加える 神沼 靖子,内木 哲也,基礎 情報システム論、共立出 版,1999

初めの一歩、コンテンツを少しだけ構造化けて

人が意味内容でコンテンツを構造化することで、機械で計算できる新たな知見の形成「ソーシャル・インテリジェンス」を実現する一歩を踏み出したい。

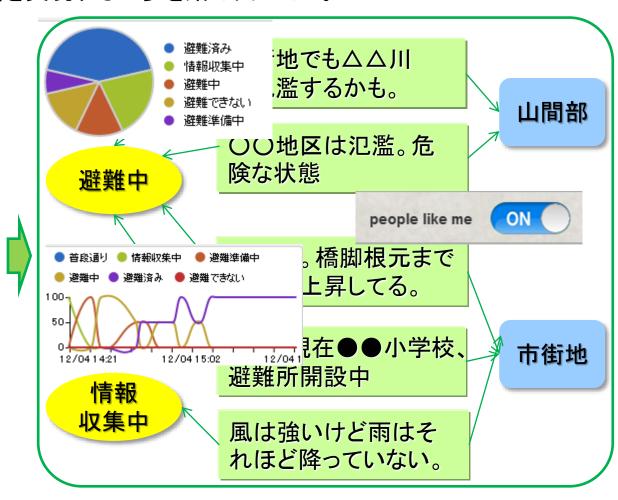
13:00現在●●小学校、 避難所開設中

市街地でも△△川が氾濫するかも。

〇〇地区は氾濫。危 険な状態

風は強いけど雨はそれほど降っていない。

△△川。橋脚根元まで 水位が上昇してる。



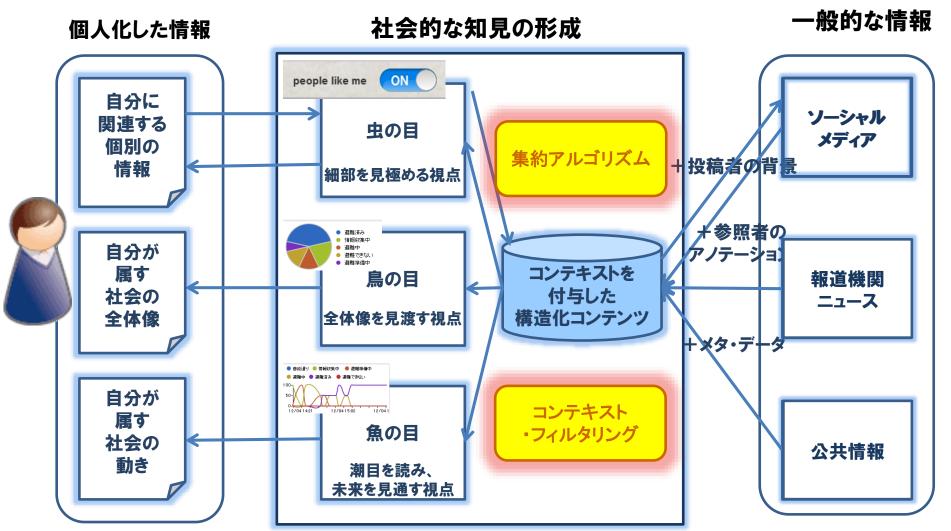
一般的なタイムラインのコンテンツ

少し意味付けて構造化したコンテンツ

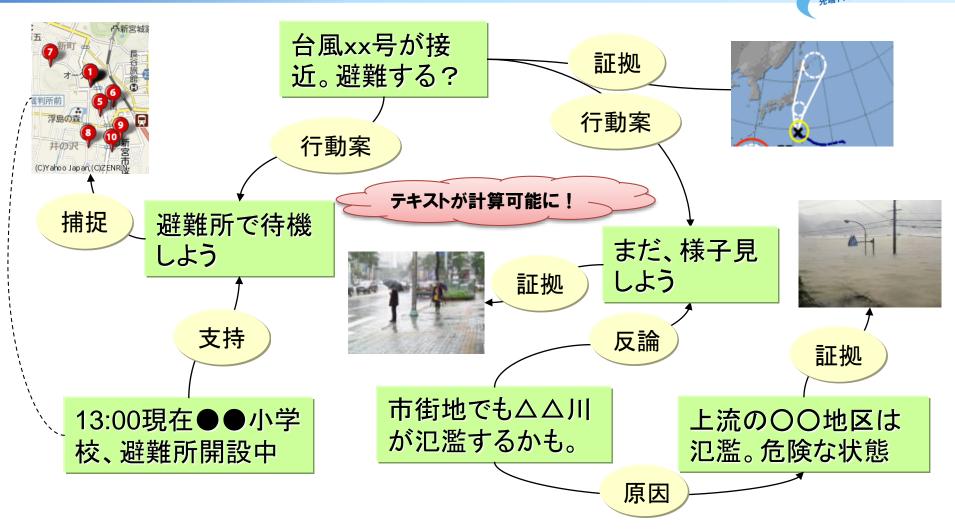
情報の個人化と社会的な知見の形成



参照者のコンテキストで情報を抽出。集約アルゴリズムで統計処理した全体的な傾向、 時間的な変化を可視化。



ゆくゆくは単純な仕組みでもっと豊かな情報を



- 構造化コンテンツには、さまざまな適用可能な技術が!
 - 証拠(エビデンス)も扱いやすい

ソーシャル・インテリジェンスのねらい



情報にコンテキストを与えることで、コンピュータは人が望む的確な情報が探索でき、断片的な情報を集積し情報の価値を増幅する

人だけでなく、コンピュータだけでもなく、コンピュータが苦手な部分を人が補い計算能力を 引き出す、人とコンピュータが協働する情報空間を実現する